

【近畿農政局長賞：単位収量の部】 農事組合法人木喰の郷もろはた（京都府南丹市）

品種	作付面積	単収	地域の単収との差(地域の平均単収)
モミロマン	約2.8ha	640kg/10a	92kg/10a(548kg/10a) ※ ※作況補正後の地域の平均単収

【経営概況】

- 平成21年に南丹市八木町諸畑地区48戸の全農家が参加し法人を設立。これまで5つに分かれていた営農組織を府営事業によるほ場整備を機に1集落でまとめる。経営面積 約25ha
- トラクター3台、コンバイン1台、田植機2台、などの大型機械や作業場を兼ねた倉庫を所有。

【作付品目】

- ・主食用米：ヒノヒカリ、キヌヒカリ等 18.5ha
- ・飼料用米：モミロマン 2.8ha
- ・加工用米：オオナリ 1.0ha
- ・小豆 1.3ha
- ・黒大豆 0.6ha
- ・野菜(たまねぎ、とうがらし) 0.3ha

【取組のきっかけ】

- 需給調整の取組として麦・大豆の作付を行ってきたが、粘土質の土壌で栽培に適していなかったことに加え、飼料用米の交付金で経営の安定化が図られることを期待し、平成23年産から飼料用米の生産に取り組んだ。
- 品種については、普及センター等の進めもあり、取組当初から多収品種「モミロマン」で飼料用米生産を行っている。

【取組概要】

- 施肥は、環境にやさしい農業に取り組もうという思いから、地元の畜産農家から排出される家畜排泄物と食品加工残さをメタン発酵させた後に出来る有機液肥を基肥(2t/10a)として取組当初から施用。近年収量の低下がみられるため、緩効性肥料(40kg/10a)を田植えと同時に施用し、収量の増収に取り組んでいる。
- 防除は省力化のため、育苗箱施用と田植時の除草剤散布の2回のみ。
- 作業効率を上げるため、取組当初からほ場をほぼ固定(1ha区画田)して作付を行っている。
- 乾燥は個人農家に委託し、設備の過剰投資を避けることに加え、個人農家の乾燥機の有効利用につなげている。



【近畿農政局長賞：地域の平均単収からの増収の部】 農事組合法人アグリファーム国友（滋賀県長浜市）

品種	作付面積	単収	地域の単収との差(地域の平均単収)
北陸193号	約8.6ha	639kg/10a	144kg/10a(495kg/10a)※ ※作況補正後の地域の平均単収

【経営概況】

- 平成19年に長浜市国友町の東西営農組合のうち西地区の営農組合(農家24戸)が法人化し、企画管理、作業、機械管理、資材、加工販売の五部体制で運営。経営面積 約50ha
- トラクター4台、コンバイン、田植機、乾燥機4台などの大型機械や作業場を兼ねた格納庫を装備。

【作付品目】

- ・主食用米:コシヒカリ、きぬむすめ等 31.0ha
- ・飼料用米:北陸193号 8.6ha
- ・醸造用米:山田錦 3.7ha
- ・六条大麦:サチホゴールデン 4.5ha

【取組のきっかけ】

- 以前は主食用米と醸造用米、麦等による経営であったが、出荷先の商系事業者(米・資材卸)の薦めもあり、27年産より、倒伏に強く、多収である飼料用米品種の北陸193号の作付けに取り組む。
- さらなる経営の安定化を目指し、北陸193号の作付けを27年産約1.3haから、令和元年産では約8.6haと大幅に拡大。

【取組概要】

- 定植後から収穫1ヶ月前まで葉色カラースケールにより葉色レベル4を切らないよう追肥の管理を徹底。
- 収穫時期を主食用米より遅くすることで十分な生育期間を確保。
- 施肥は元肥として緩効性肥料を1回(30kg/10a)施用し、追肥として化成肥料を1回(20kg/10a)、単肥(硫安)を2回(15kg/10a)施用。
- 種子の温湯消毒を実施し、農薬の使用量を削減。
- 防除は省力化のため、育苗箱施用と田植えと同時の除草剤の散布にとどめる。
- 飼料用米の作付ほ場を固定し、他品種との混入を防止。



滋賀県

長浜市

